

県内の小麦は平年より早く開花期に達する見込みです。
赤かび病の薬剤防除は、今後の生育ステージを注視し、
開花期に確実に実施しましょう。

現在の状況

- 1 小麦作況圃（北上市）では、平年より12日早く幼穂形成期を迎えており、平年の気温に基づく出穂期は平年より7日程度早まることが予測される。本病の防除時期である「開花期」は、概ね5月第3半旬と見込まれる（表1）。

表1 小麦の生育ステージ予測（岩手県農業研究センター作況ほ場（北上市））

品種	は種年次	幼穂形成期 (月/日)	減数分裂期 (月/日)	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)
ゆきちから	4年	3/27	【4/25】	【5/5】	(5/13)	(6/23)
	平年	4/8	5/3	5/12	5/20	6/30
	差	-12	[-8]	[-7]	[-7]	[-7]

※【】は、4月14日現在の幼穂長と日平均積算気温の平年値による予測日（H22, 23 古川農試参考資料）。

（）は平年の生育ステージの推移に基づく予測日（開花期は出穂期+8日、成熟期は同+49日）

※表は、令和5年4月20日発表 農作物技術情報第2号畑作物（農業普及技術課農業革新支援担当）より引用。

防除対策

- 1 赤かび病菌は開花した穂に感染する。このため、**開花始期～開花盛期の薬剤防除が最も効果的**である。
- 2 表2に基づき、**適期に防除を実施**する。特に、「ゆきちから」（赤かび病抵抗性「やや弱」）では、開花期とその7～10日後の2回防除を徹底する。
- 3 開花期以降、25℃付近で曇雨天が続く場合には、表2の「必須」に加え、**その7～10日後に追加防除**を実施する。
- 4 成熟する前で穂が緑色の時期は、**罹病穂を識別しやすい**ので、この時期に抜き穂を行い、赤かび粒の混入回避に努める。
- 5 耐性菌を生じさせないため、同一薬剤は年1回の使用とする。

表2 小麦品種別の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		1回目散布	2回目散布	3回目散布
		開花期	1回目散布の7～10日後	2回目散布の7～10日後
ナンプコムギ 銀河のちから	中	必須	状況に応じて追加散布	—
ゆきちから	やや弱	必須	必須	状況に応じて追加散布

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（１）使用基準の遵守（２）飛散防止（３）防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/2003279/index.html>

